



## 現場報告 岡崎製材所 岡崎定勝さん

岡崎製材所、岡崎定勝さん

1 2 3

Like 0 ポスト

中央高速から東海環状自動車道に入ると、途端にいくつものトンネルが続く。美濃加茂と多治見との間に横たわる山のかたまりの下を通過していることが分かります。トンネルを抜けてすぐの可見御嵩ICを下りて、平野部から山手へ、くなくんと標高をあげながら走り続けていくと、道はどんどん細く、くねくねと曲がる山道に変わり、峠を越えて八百津町に入りました。来たのと同じようなくねくね道を下りきると、ゆったりと流れる木曾川べりに出ました。橋を渡ると、栗さんとん屋さんののぼりが連なる古い街並みに出ます。



ゆったりと蛇行する木曾川に沿う八百津町の町

ここ、岐阜県加茂郡八百津町に、木の家ネット会員の岡崎定勝さんが経営する岡崎製材所があります。八百津の「津」とは「船が停泊する所」また「港をひかえて、人の多く集まる所」という意味です。山の中から美濃平野に出る境にあたる八百津は古くから木曾の山々からの檜や杉などの木材が集積し、下流からは生活物資が届き、山の方から生活物資を買出しに来る人も集まる、水運で栄えた町でした。

木曾川の奥から切出す木曾松は、伊勢神宮の遷宮用材としても知られ、日本三大美林のひとつに数えられます。名古屋から発する中央線は、多治見から中津川に入り、塩尻まで木曾谷を走りますが、沿線は、木曾福島、上松など、日本でも有数の木曾松の産地があります。さらに上流には、以前木の家ネットでも紹介した春野屋漆器店さんのように、木地に漆を塗る職人さんなどもおり、山で生計をたててきた地域です。同じ檜でも、岐阜県東濃地方の裏木曾で産したものは、同じ木曾川沿いであっても東濃檜と呼ばれます。

### 親子3代、大家族での暮らし

屋号の「カネマス」が描かれたガラス戸の向こうから、岡崎さん、奥様の政子さん、長女の恵子さん・元（はじめ）さんご夫妻と子供たち3人の7人と、次々とご家族が現れてのお出迎え。落ち着いた家並みが続く静かな通りが、いっぺんに賑やかになりました。ほかにディスプレイに出かけた岡崎さんのお母様と、外出している恵子さんの妹と合わせて9人が同居する大家族です。まずは、自宅兼事務所の通りをはさんで向かい側にあるショールームで、お話をうかがいました。



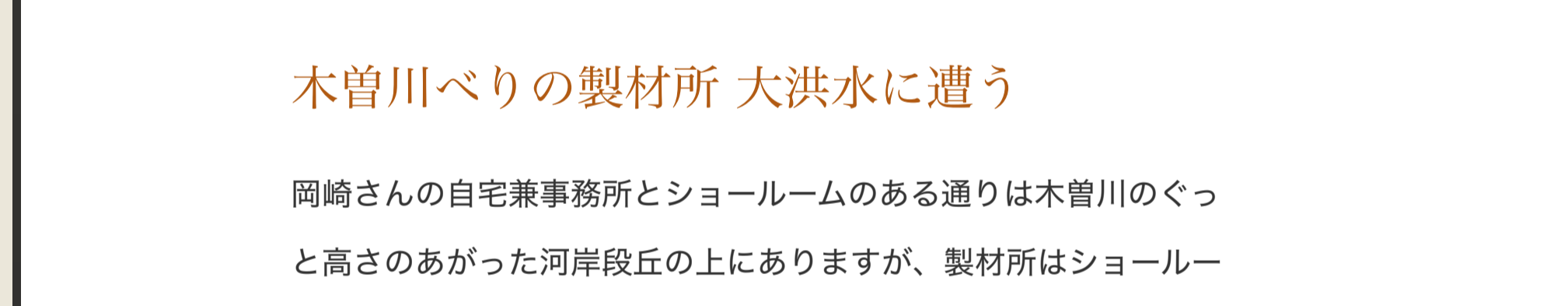
昭和30年代に建った岡崎さんの自宅兼製材所事務所



左：事務所の通り向こうに見えるのは、古い木小屋をリフォームしたショールーム 右：元気な孫たちと日々々々！の岡崎さん

岡崎家は物資の集散地であるこの八百津で油屋さん、生糸商など、さまざまな商売をしてきましたが、3代前から、生糸と並行して材木商を始めたそうです。関東大震災で横浜にあった生糸の倉庫が失われたことで、生糸はやめ、材木商一本になりました。材木商と言っても、材を売るだけではなく、自ら山を育て、自分の山から出る木も買い求める木も製材し、売るところまでを一貫して手がけていました。

「親父の代までは、山から川で流してきた原木をここで筏に組んで下流に流していたそうです。筏を組む専門の人や筏乗りの人が住む集落がありました。ここを朝3時に出て、中山道船泊宿まで運び、権をかついで歩いて帰るのが日課だったと聞いています。」太平洋戦争が激化した1943年（昭和18年）に兼山ダム、1952年（昭和27年）にその上流に丸山ダムができ、木曾川は今のよう川幅が広くなり、堰き止められた川からは、筏や船は姿を消しました。



左：大量に集まる原木を筏に組んでいた頃の様子 右：今も年に一度、筏を組んで木曾川を漕ぐ筏レースが実施される。カネマスの半纏を着込んで参加するのが楽しみ

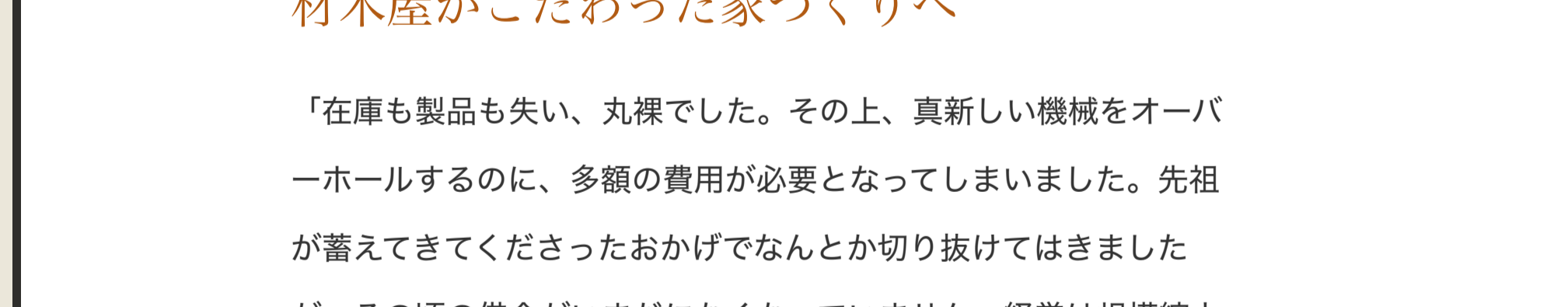
### 木曾川べりの製材所 大洪水に遭う

岡崎さんの自宅兼事務所とショールームのある通りは木曾川のぐつと高さのあがった河岸段丘の上にあります。製材所はショールームの脇から、木曾川のほとりへと下ったところにあります。工場の裏側はすぐ木曾川で、川面からの高さはわずか3メートル。水運の時代には、上流からくる原木を貯木し、製材品を下流に送るのに最適な立地であったにちがいありません。

ところがそれが裏目に出る結果となることになりました。1983年（昭和58年）9月28日、台風10号が東海地方を襲い、かつ、木曾川上流部での集中豪雨も重なり、八百津上流にある丸山ダムが大量に放水、木曾川の水かさが増え、美濃加茂地方一帯は大浸水しました。家のある通りはぎりぎり無事でしたが、お父様の代から岡崎さんに代わりして新しく購入したばかりの、ボタンひとつで製材の全工程をおこなえる全自動の機械を入れた製材所も、高さ10メートルも大水に浸かってしまったのです。

「雨がどんどん激しくなってきた、これは危ないのでは？とダムの事務所に電話をくれたら5分後、水門を一気にあけたのです。洪水にならないよう、水量を調節する役目をもつはずのダムであるのに、裏腹な結果になってしまいました。」入れて3年目、やっと慣れかけてきた全自動の製材機も泥水につかって使えなくなり、製材品も原木もみな伊勢湾へと流されてしまいました。損害額は1億円以上。

「うちの原木にはカネマスの焼印をしてあるのですが、知多半島の先端の野間のある方から『お宅のものが流れ着いてますけど』とお電話いただきました。取りにくいんですけどありませんでしたけれど、まだ小中学生の子供たちの子育て中でない奥様の政子さんでも、当時をふりかえっておっしゃいました。「本当に大変なことでしたが、家族が全員無事だった、そのことだけが救いでした。代替わりしたばかりの若い私たち夫婦でしたが、なんとかがんばるしかない、と思いましたね」



岡崎さんのアルムより。全自動の機械が入ったお祝いの写真のすぐ次のページに、大水で壊れた製材所や、在庫をすべて流された倉庫の写真が並ぶ

### 危機からの展開 材木屋がこだわった家づくりへ

「在庫も製品も無い、丸裸でした。その上、真新しい機械をオーバーホールするのに、多額の費用が必要となってしまいました。先祖が蓄えてきてくださったおかげでなんとか切り抜けてはきましたが、その頃の借金がいまだになくなっていません」経営は規模縮小を余儀なくされ、高齢で自然退職していく社員を新たに補充することなく、いつしか全自動の機械が岡崎さんがひとり扱うようになっていきました。

しかし、それは単なる規模縮小ではありませんでした。この存続の危機を境目に、岡崎さんはそれまでとは違った切り口での仕事のありかたを模索していくようになります。それが今の岡崎製材所の最大の特徴である「材木屋がこだわった木の家づくり」でした。

Like 0 ポスト

1 2 3



関連する記事はこちら

- 板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
- 3.11後を生き抜くコミュニティの力 杜鹿半島 福貴浦より
- 工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして
- 大工・金田彦彦さん(大J(だいかね)建築)：幸せをつくる大工
- NPO関書販わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

#### 木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2019年6月15日 やさしく強い、理想の家を求めて：アイ設計研究室 大前崇秀さん
- 2019年5月15日 磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所 西岡健一さん
- 2019年4月20日 大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊河さん
- 2019年4月10日 本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木村 高橋一浩さん
- 2019年1月5日 新春特集 2018年のベストショット集
- 2018年12月29日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声&今後の課題編
- 2018年12月17日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編
- 2018年12月14日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
- 2018年9月4日 番匠 菊持工務店 副棟梁・菊持大輔さん
- 2018年8月15日 福岡総会予告 その1 数えより、生き延びよ！

#### 人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御船始発：300年の大木を伝える！ 18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって使う 15件のビュー
- 設計士・川原謙さん(川原建築設計)：小さな石場建ての家 11件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(スイトラファイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデュース 8件のビュー
- 大場江美さん(ウスタインプロジェクト)：これからの「職人がつくる木の家ネット」 5件のビュー
- サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート 5件のビュー
- 工務店・直井徹男さん(エココロジー工房)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店 5件のビュー
- 設計士・林美穂さん(ストロファイン・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー

#### この記事のタグ

日本の山河を守りたい  
現場レポート

#### 同じタグがついた別の記事

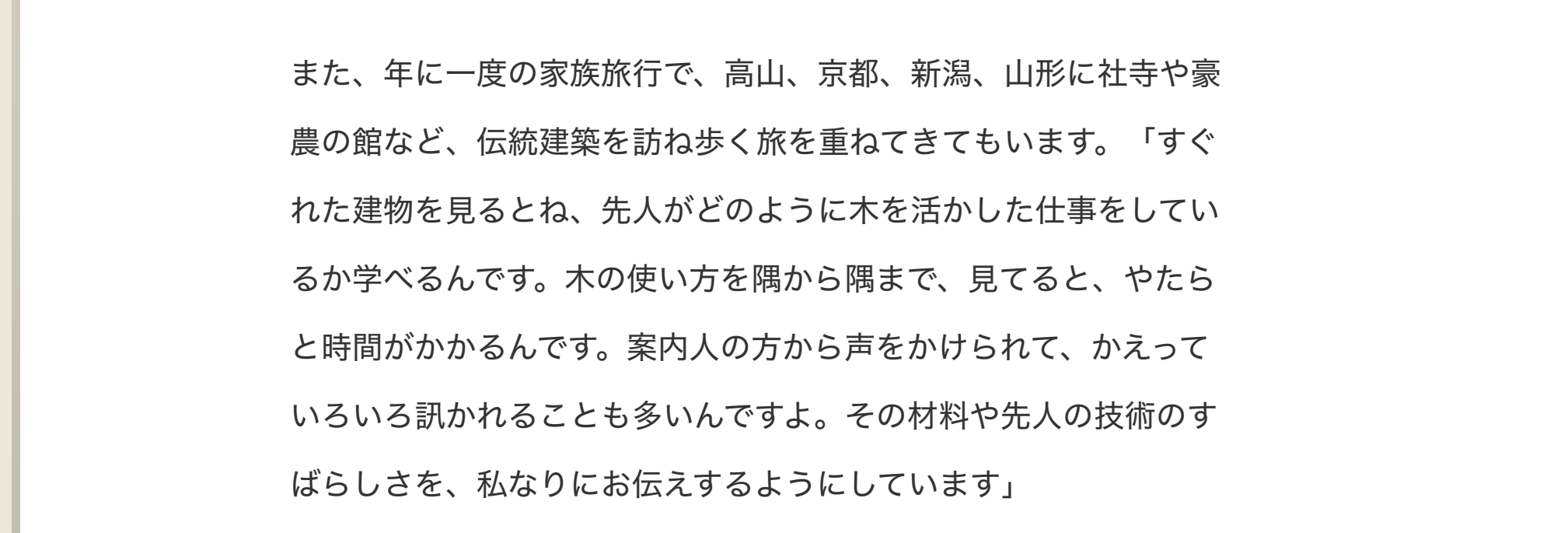
- 2022年8月25日 林材ジャーナリスト・赤堀栞雄さん：無理のない自然な存在、それが木の家
- 2007年11月25日 木の家ネット第七期総会・徳島大会レポート
- 2005年2月25日 緑の日本であり続けるために
- 2009年4月30日 山里の暮らしがなくなる？
- 2008年10月25日 緑を絶やさないために



# 現場報告 岡崎製材所 岡崎定勝さん

「木を読む、木を活かす。それが製材所のやり甲斐」

岡崎さんはご自身を「とにかく木が好きではない」と語ります。ショールームには、木挽職人が原木から縦方向に板を挽き出す大鑑（おおが）が飾ってあります。「昔の木挽は、木のことを知り抜いていた。木を外側から見ただけで、その木がどう育ってきたか、中を挽いたらどうなっているか、オートメーションの時代になった後よりも、木を読む優れた目をもっていったんです。そうした先人への敬意をこめて、手で製材していた頃の道具をここに展示しています」若い頃はまだまだそうした木を読むことのできる先人が健在で仕事していて、岡崎さんは多くを学びました。

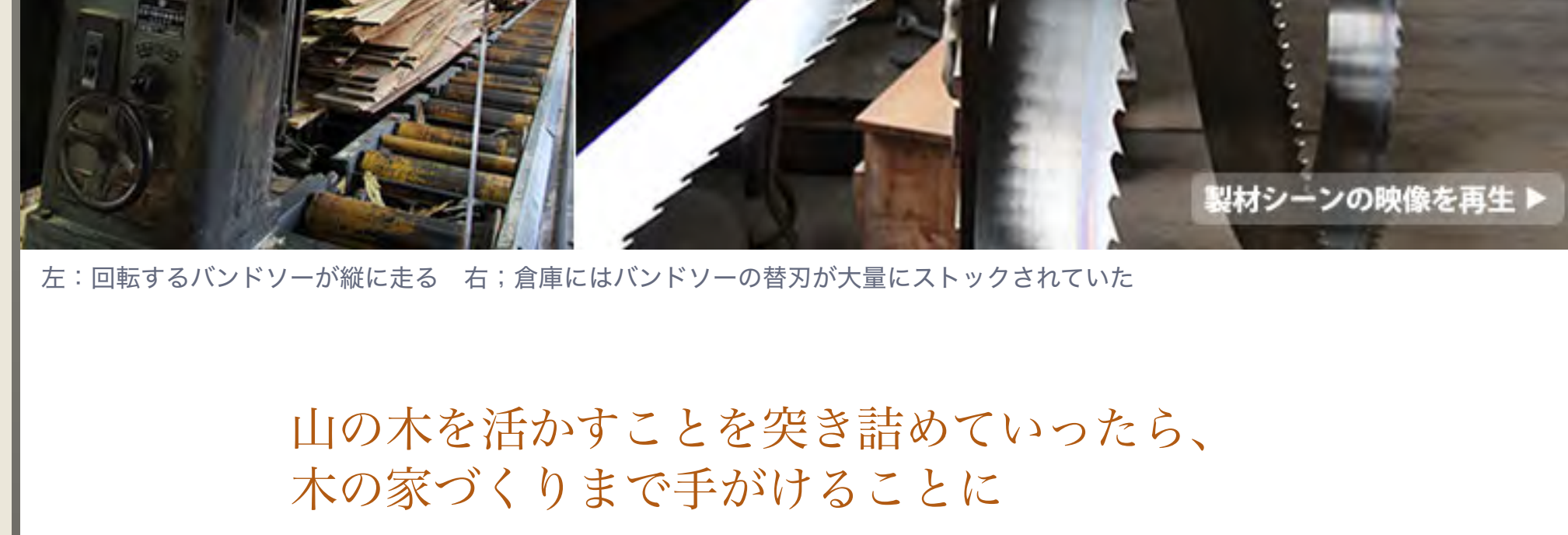


昔の木こりや木挽が使っていた秤や大鑑。一番左に見えているのは、二人で気を含ませて挽く重

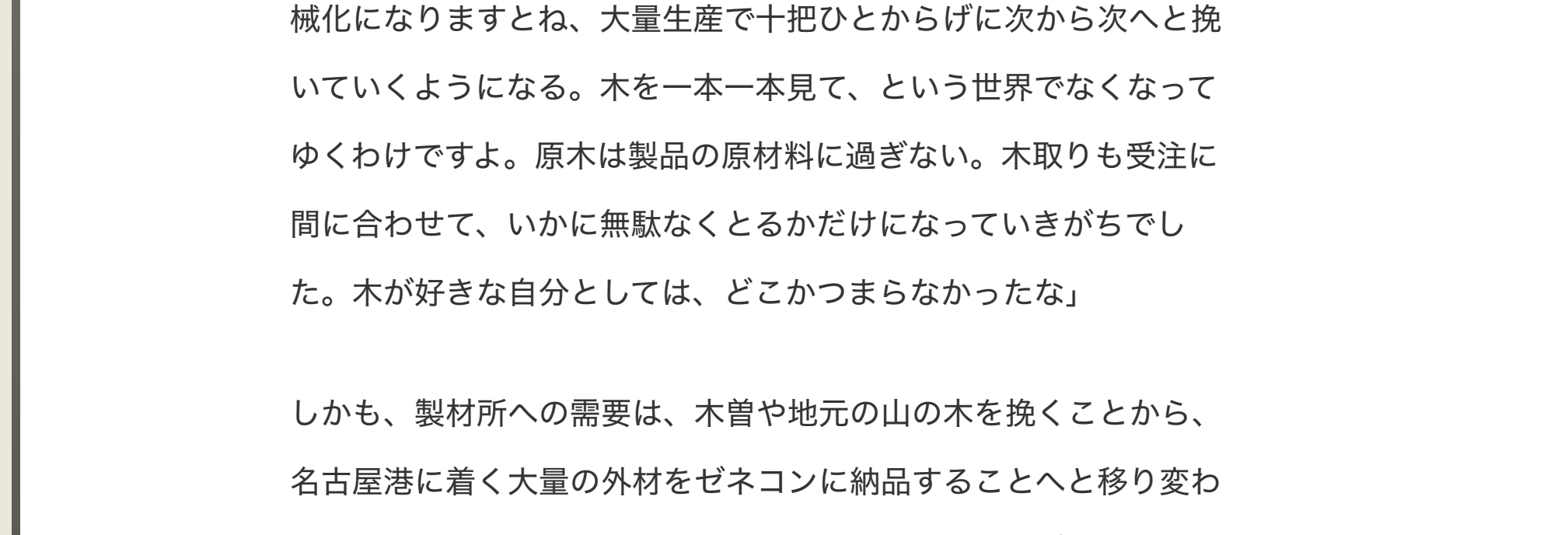
また、年に一度の家族旅行で、高山、京都、新潟、山形に社寺や豪農の館など、伝統建築を訪ね歩く旅を重ねてきています。「すぐれた建物を見るとね、先人がどのように木を活かした仕事をしているか学べるんです。木の使い方を隅から隅まで、見えて、やたらと時間がかかるんです。案内人の隣から声をかけられて、かえっていろいろ訊かれることも多いんですよ。その材料や先人の技術のすばらしさを、私なりにお伝えするようにしています」

「木を読む、木の特徴やクセをとらえながら最高の活かし方をする木取りをする。このプロセスが、製材をして一番楽しいわけです。木は一本一本違う。先祖がうちの山に植え、手をかけて育ててくれた大切な木を、そのようにして活かして、はじめて先祖への恩を返せる気がしています」先人の木挽の目で木を読み、最高の活かし方を考え、それを実現する。木が大好きな岡崎さんにとっては、それが製材所昇りにつきますのです。

岡崎さんは製材所で、かつて大木に浸かったのと同じ全自動製材機で、ご自分の山の高野槇を挽いてくださいました。「なんともいえない香りですよ。浴槽や洗面ボウルを埋め込む合いの木なんです」木をつんざく音とともに、原木から白い木肌があらわれるとともに、製材所じゅうよい香り立ち上ります。こちらから動画をご覧ください（香りが伝わらないのが残念です）。



現在の製材。台車に原木を載せ、角度や厚みを決めて、高速で回転するバンドソーを通過することで材を取り出す

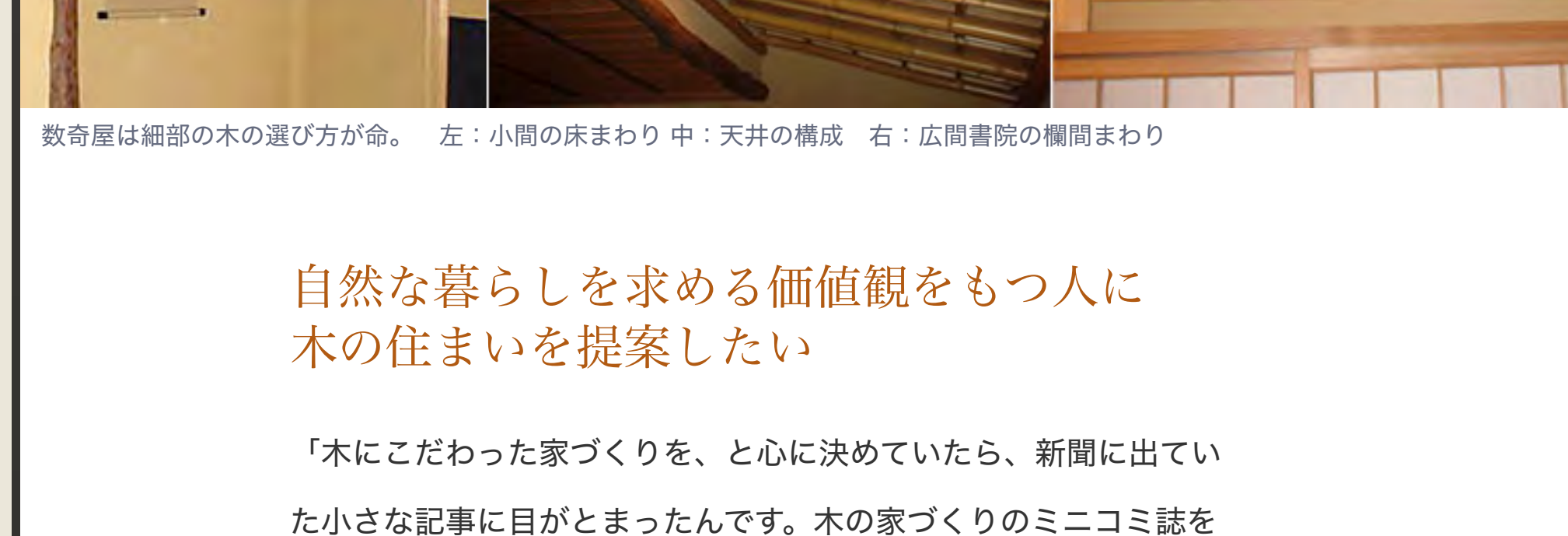


左：回転するバンドソーが縦に走る 右：倉庫にはバンドソーの替刃が大量にストックされています

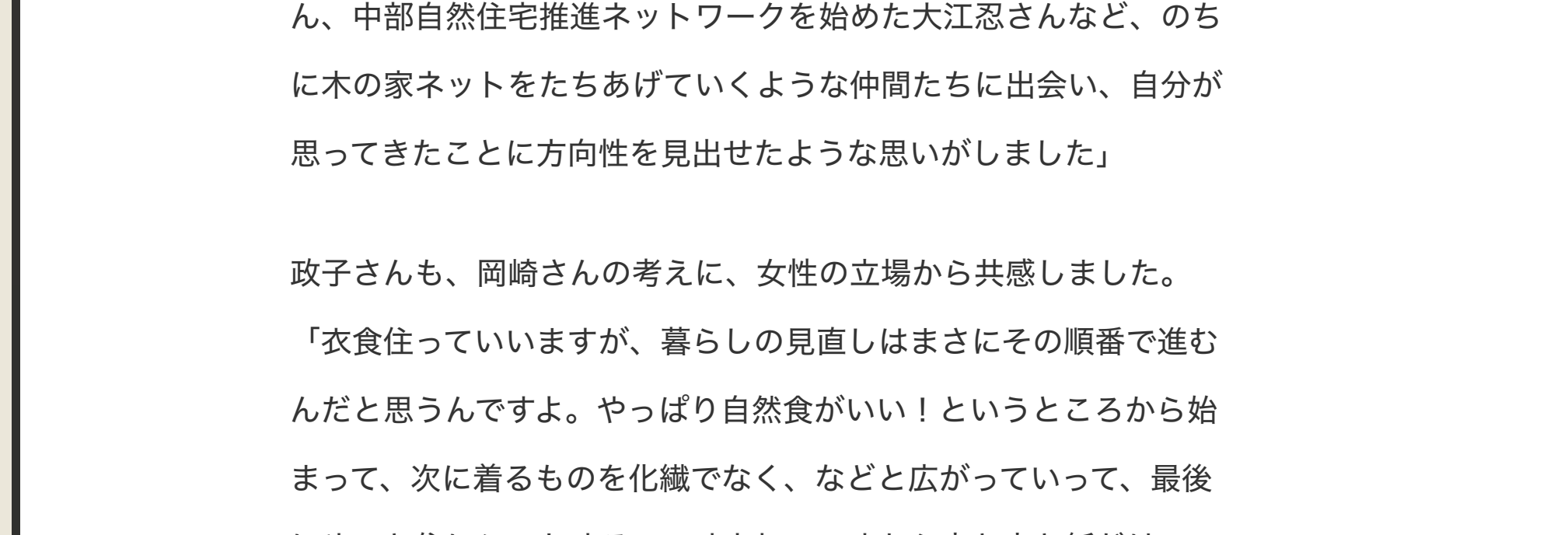
## 山の木を活かすことを突き詰めていったら、木の家づくりまで手がけることに

ところが、岡崎さんが代を継いだ高度経済成長期は、昔ながらの木挽の時代とは様相がらんと変わりゆく、変化の時期でした。「機械化になりますとね、大量生産で十把ひとからげに次から次へと挽いていくようになる。木を一本一本見て、という世界でなくなってゆくわけです。原木は製品の原材料に過ぎない。木取りも受注に間に合わせて、いかに無駄なくとるかだけになっていきがちでした。木が好きな自分としては、どこかつまらなかったな」

しかも、製材所への需要は、木曾や地元の山の木を挽くことから、名古屋港に着く大量の外材をゼネコに納品することへと移っていました。「これだけ木の育つ木曾川流域にないから、そして先祖が残してくれた山がありながら、これでいいのかと、心にとくりこないものがあつたんですね」そしてついに、根っから木が好きな岡崎さんは、材木を挽いて売る製材所から、家づくりまで手がける製材所へと大転換をはかりました。「木のをよさを活かす、伝えるにはどうしたらよいか考えていいたら、自然と、木にこだわった家づくりを自ら手がけることになっていったんです」



岡崎さんが長年建てて来た「木を見る目」は、数寄屋や茶室の仕事にも発揮されています。八百津大仙寺の茶室茶室。



数寄屋は細部の木の選び方が命。 左：小間の床まわり 中：天井の構成 右：広聴書院の欄間まわり

## 自然な暮らしを求める価値観をもつ人に木の住まいを提案したい

「木にこだわった家づくりを、と心に決めていたら、新聞に出ていた小さな記事が目にとまったんです。木の家づくりのミニコミ誌をつくっている仙台の林さんの講演会が名古屋であるという案内でした。そこに出かけていったことをきっかけに、大工の中村武司さん、中部自然住宅推進ネットワークを始めた大江忍さんなど、ちに木の家ネットをたちあげていくような仲間たちに出会い、自分が思ってたことと方向性を見出せたような思いがしました」

政子さんも、岡崎さんの考えに、女性の立場から共感していました。「衣食住っていいですよ。暮らしの見直しはまさにその順番で進むんだと思うんです。やっぱり自然の見直しはいいところから始めて、次に着るものを化繊でなく、などと広がって行って、最後にやっと住にシフトするんですよね。ですから木と土と紙だけでつくる自然素材の家づくりを通して、暮らし全体にむけた提案ができるんじゃないか」

岡崎製材所のパンフレットには「すまいとは、そこに住む家族が幸せで健康であり、素晴らしい人生を送れる、そんな器でできること。すまいは環境。その環境は、樹々でできることが大事なんです」と書かれています。「その価値観を共有できることが大事なんです。お客様がみえと、その方の価値観が分かるまでは、仕事は受けません。『うちに決める前に、すべての建築屋さんを見てください、親感がつくれた家をぜひ見せてください。それでもよかったですら、うちに帰ってきてください』と言います。違う価値観の人を振り向かせることまではできると思っていないですが、自然な暮らしを志向する価値観をおもちの方には、木の家づくりへとつながるようなきっかけをつくりたいです。一人でも二人でも、日本の木への愛着をもてる人をつくりたい。それが、循環型社会につながるのだと思います」

## 木にゆっくりと親しめるショールームをつくった！

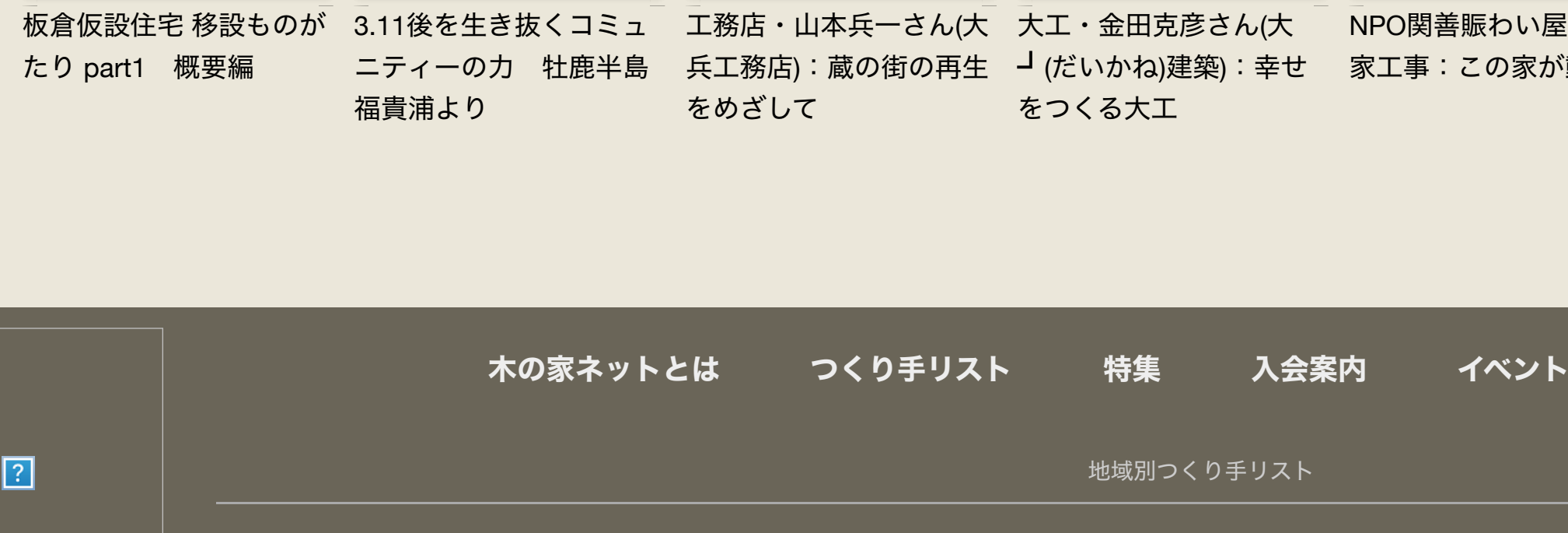
最近では、見学会をすると、若い家族が多いのが多いです。広範囲にわたる津波を伴った巨大地震と原発災害が重なった災厄を体験し、自然な暮らし、工業製品やオール電化に頼らなくてもよい暮らしを志向する人は増えてくることでしょう。木の家づくりを通して暮らし方の提案をすることの重要性は、今後、より増えてくるに違いありません。

自宅兼事務所の向かいにショールームをオープンしたのは、そんな暮らしの提案を具体的に体感できる場をつくるのが、早速でないかと考えたからです。「木の良さを突進するにはまず、目で見えて、触って、木のやささ、楽しさを感じることが大事です。目で見ると、ショールームには、自然の板が常時150枚くらいストックしており、そのひとつひとつが色も、触った感じも、香りも違います。それをまず味わってもらい、好きな木を見つけてもらいます。」



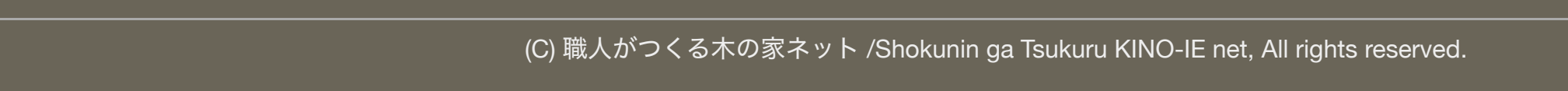
事務所の向かいにあった古い小屋をリノベーションした、素敵なショールーム

座卓、テーブル、机と本棚のセットなど「材木屋にある木」を組み合わせただけでできあがるシンプルな家具類もいろいろ置いてあります。政子さん手作りのステンドグラスの照明や、多治見の作家さんから仕入れた陶器を生かした洗面ボウルなど、家族や地域のものを生かしてできるものが、華を添えます。「地元産をはじめ、地域資源や手作りのものでつくるオーダーメイドの住宅って、めちゃくちゃ高いと一般には思われています。けれど、こうやって工夫をすれば、新建材を使わずで自然のものばかりで、ハウスメーカーに頼むつもりだった予算でできますよ、と申し上げるんですよ」



ショールームに林立するさまざまな樹種の材。それぞれの木の存在感を体感できます。

関連する記事はこちら



飯倉仮設住宅 移設ものがたり part1 編纂 職人 3.11後を生き抜くコミュニティの力 杜産半島 福貴浦より 工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして 大工・金田克彦さん(大「だいかね」建築)：幸せをつくる大工 NPO開善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！

### 木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2018年3月27日 伝統建築に挑むすべの職人に光を
- 2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建築物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産登録選定のおしらせ
- 2018年1月25日 新春特別企画 2017年のベストショット
- 2017年12月14日 第17期木の家ネット総会・建築大会・民家修復と民家
- 2017年10月14日 気候風土適住宅のチラシができました！
- 2017年9月4日 家のお風呂、こうやって作る。こうやって保つ
- 2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
- 2017年6月30日 気候風土適住宅のスヌ
- 2017年6月9日 掛川総会3
- 2017年6月9日 掛川総会2

### 人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御祭神：300年ぶりに18件のビュー
- 家のお風呂、こうやって作る。こうやって保つ 15件のビュー
- 設計士・川崎真さん(川崎建築計画)：小さな石垣建ての家 11件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(オグエ工房)：多岐大を伝る18号道の無垢の木の家づくり
- 工務店・小田貴之さん(オグエ工房)：木の家のプロデュース
- 大場江美さん(サツキ&メイ&私の家)：愛・地球博レポート 5件のビュー
- 前代表 大江忍さん(オグエ工房)：「職人がつくる木の家ネット」 5件のビュー
- 工務店・藤井雅明さん(エコロジー工房)：発掘しつづける工務店、人が育つ工務店
- 設計士・林美穂さん(ふくとデザイン)：職人がつくる木と土壁の家 5件のビュー

### この記事のタグ

日本の山辺を守りたい  
現場レポート

### 同じタグがついた別の記事

- 2002年8月25日 林材ジャーナリスト・赤堀健蔵さん：無垢のない自然な存在、それが木の家
- 2015年11月9日 第14期木の家ネット総会 岐阜・加子母分會
- 2008年4月27日 国産材時代到来か？最新動向を検証
- 2007年5月25日 日本人の暮らしと木
- 2002年1月25日 Q&A：環境篇



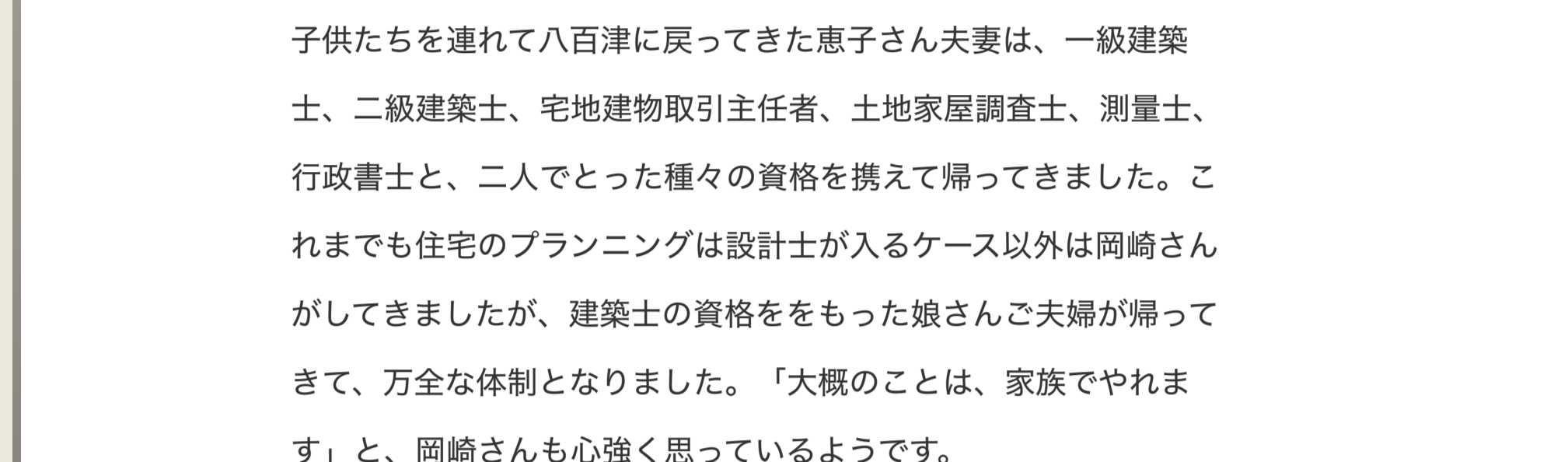
1 2 3

Like 0 0 ポスト

### 家族の手の技と地域の資源で 手作りの木の家を

「地域資源と手作りで木の家を」と提案できる岡崎さんの強みは、家族がしっかりしていること。その家族とは、核家族ではなく、先祖から子孫へと世代を通じてつながる家族の力です。山には先祖が植えた木があり、家族は子孫の世代まで含めて、木の家づくりにそれぞれのパートで関わっています。

まず、経理事務など製材所を切り盛りしながら、ステンドグラスで飾り窓や照明器具などを作られる奥様の政子さん。政子さんが育った多治見には、昭和5年に建てられたカトリック神言修道会の修道院がありました。広大なぶどう畑の中に木造3階建て、赤い屋根と白亜の壁の建物。礼拝堂には、ガラスははめこまれており、色ガラスを通した光のやわらかさに、子どもながらに感動されたことが、ステンドグラスを始める原点となったそうです。



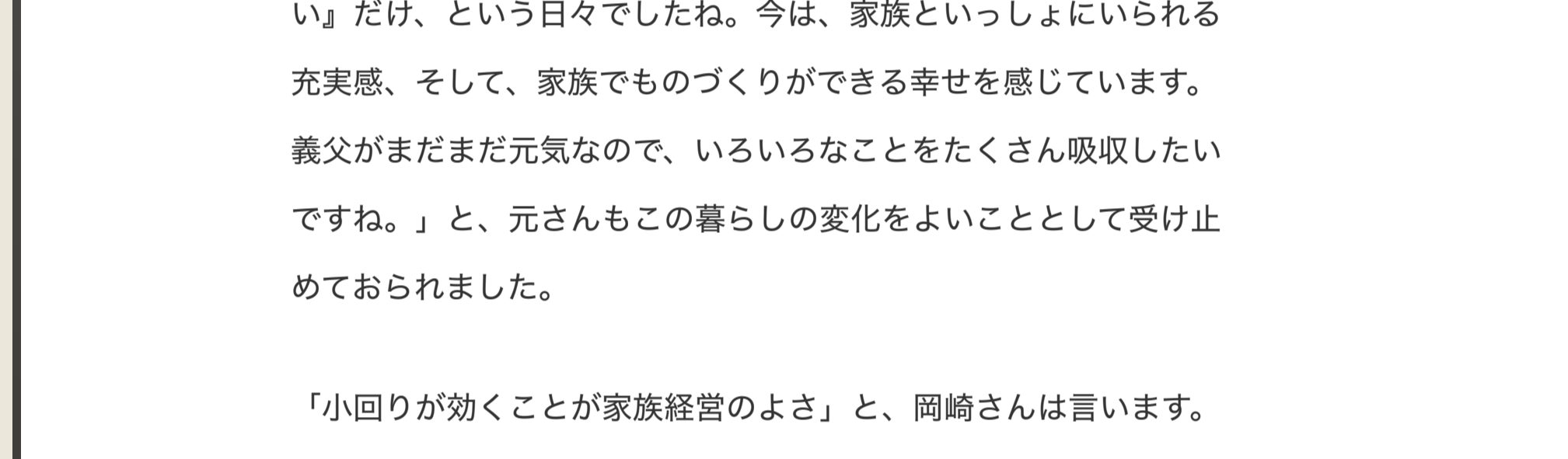
左：ステンドグラスを製作中の政子さん 右：オシドリをモチーフにした照明器具。ガラスが透けて壁に映し出す影の姿が美しい

岡崎さんと政子さんの間には、娘さん二人がおられますが、長女の恵子さんは勤めた仕事で知り合った元（はじめ）さんと結婚、元さんと3人の子供たちとともに、家業を手伝うために八百津に戻ってきました。

「いずれ戻って家を継ぐものだ、小さい頃から自然とそう思っていました。就職、結婚で10年間名古屋に住みました。鍵一つで戸締りでき、なんでも自分の思うようにできる核家族だけの暮らしは快適で便利でしたが、なんだか私にはあっさりしすぎていて、そこで一生暮らす気はしませんでした。田舎はいろいろながらみがあって、面倒くさいけれど、それでいてやっぱり、ほっとします」

子供たちを連れて八百津に戻ってきた恵子さん夫妻は、一級建築士、二級建築士、宅地建物取引主任者、土地家屋調査士、測量士、行政書士と、二人でとった種々の資格を携えて帰ってきました。これまで住宅のプランニングは設計士が入るケース以外は岡崎さんがしてきましたが、建築士の資格をもった娘さんご夫婦が帰ってきて、万全な体制となりました。「大概のことは、家族でやれます」と、岡崎さんも心強く思っているようです。

ご主人の元さんもこれまでのキャリアとはまったく別世界の仕事を、義父の岡崎さんについて、どんどん身をつけていっています。「前の仕事は金属関係。ものづくりの充実感という意味では同じですが、金属にはないあたたかみのある木の世界に、どんなはまっています。お祭やPTA、消防団などの活動を通して、八百津のみなさんの人柄に触れ、ここにふるさつを感じるようになってきています」



左から、岡崎定勝さん、元さん、政子さん。

### 家族みんなでのものづくり

「ただ製材所をやっていただけでは、ここには年寄り夫婦しか残らなかったかもしれません。家族それぞれが自分の特技の仕事をもち寄って、家づくりに携われるのは、ほんとに嬉しいことです。」と岡崎さんも笑顔ほころばせます。

「製材所の仕事をするまでは、片道2時間かけて、会社に通っていました。家族との一日の会話が『行ってきます』と『おかえりなさい』だけ、という日々でした。今は、家族といっしょにいられる充実感、そして、家族でものづくりができる幸せを感じています。義父がまだまだ元気なので、いろいろなことをたくさん吸収したいですね。」と、元さんもこの暮らしの変化をよいくとして受け止めておられました。

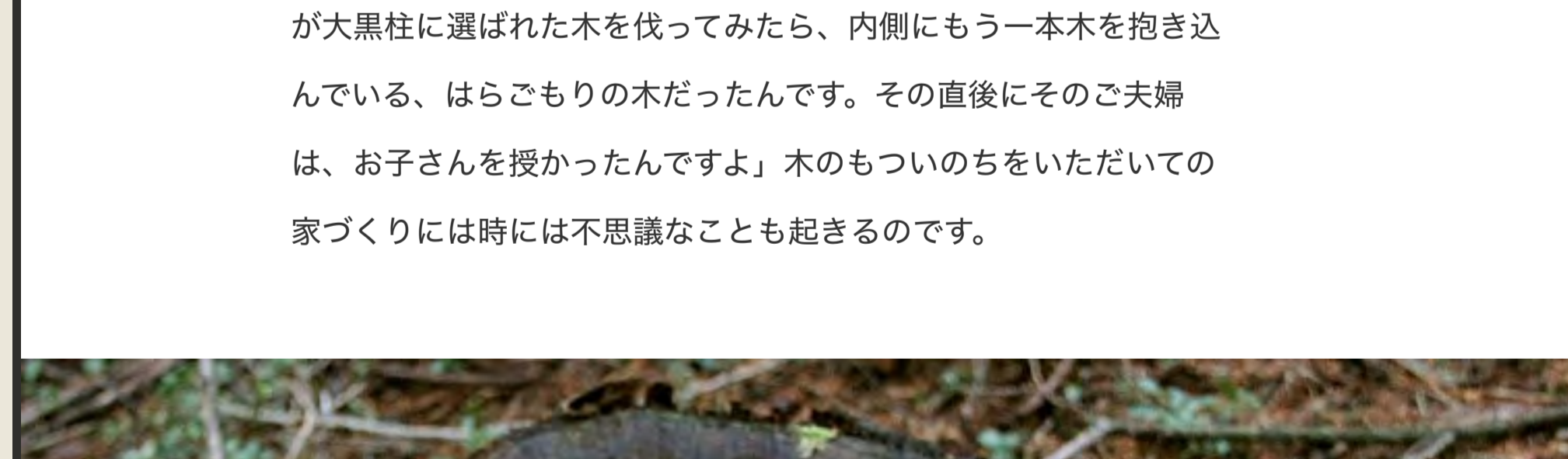
「小回りが効くことが家族経営のよさ」と、岡崎さんは言います。原木生産、製材、建て主さんとの打ち合わせ、設計、インテリアなど、施工そのものの以外のほとんどをすべて家族の中でまかなえています。「家族経営での手作りのものづくりということ、ハウスメーカーにはできないことができるのではないのでしょうか」と政子さんは言います。

ところで、家族でまわし、家族をまかなえる経営とは、どのくらいの規模なのでしょう？「多くて年間5棟くらいですね。それより規模を拡大しようと思えば、家族だけではやっていけないですし、規模を大きくしたら今のようなり方は成り立たないでしょう。」家族経営だからこそ、融通が効く部分もあるのかもしれない。

### 先祖が残してくれた山からの家づくり

そして、もうひとつの強みは、自分の山をもっていること。家づくりが成約すると、岡崎さんは、お施主さんをまず、山に連れていきます。「先祖が残してくれたおかげで、お施主さんに山の本からの家づくりを提案できます。ありがたいことです。」

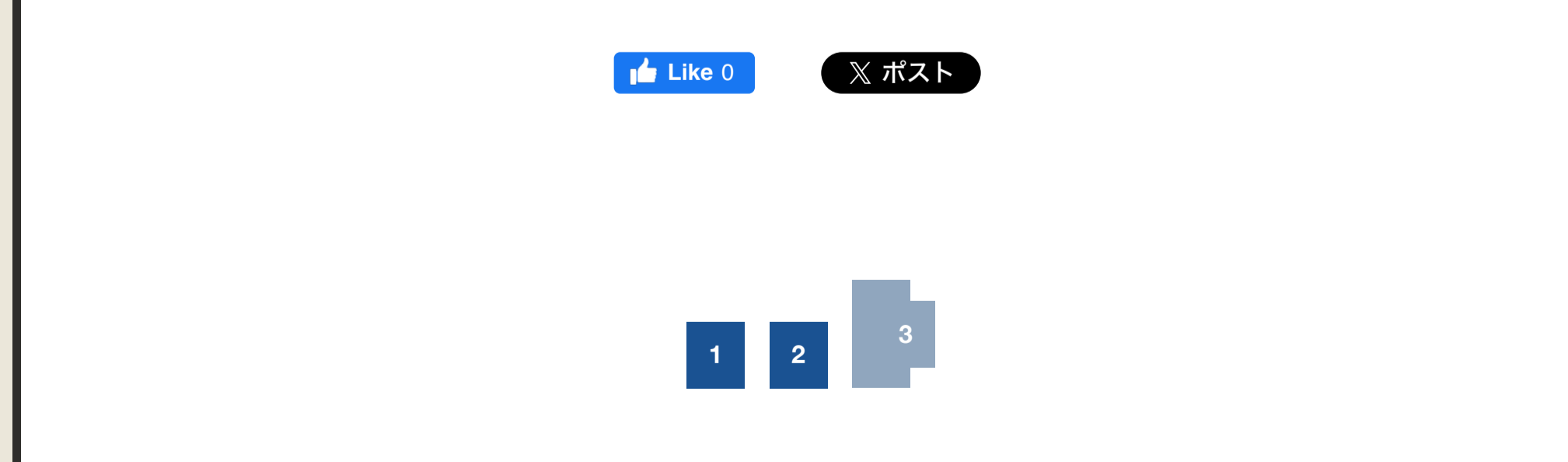
取材の最後には、岡崎さん、娘さんご夫婦とお孫さんの定英君と一緒に山に連れて行っていただきました。定英君は、地下足袋を履き、腰に鉈をさげた「山に入る」出で立ち。「ここからがうちの山だよ！」と自信をもって教えてくれました。岡崎さんにそっくりな、ご自慢のお孫さんです。



左：山に入るとますます生き生きとする岡崎さん、右：孫たちも山には慣れたもの！

山には、尾根筋から入る道がついていて、その両側の斜面に岡崎さんの年齢以上の樹齢の立派な檜や杉が立ち並びます。定英君もご両親も、歩き慣れた山のように、すいすいと斜面をおりていきます。一本一本の木を見上げて、岡崎さんが立木の良し悪しの見分け方などを話してくださいます。お施主さんをともなって山に来る岡崎さんに同行することで、娘さんやお孫さんが木のことを自然と覚えていくのです。

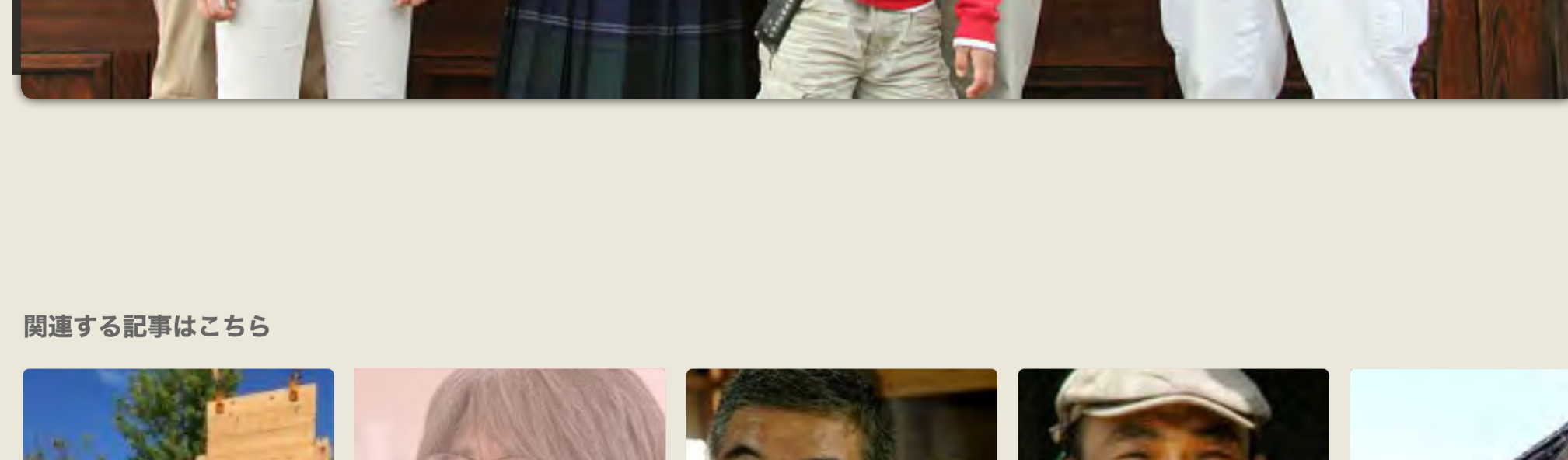
「お施主さんには『この中からあなたの家の大黒柱になる木を選んでください』と申し上げます。ひとつひとつの木を見て『これにします』と決めていただきます。伐採にもできるだけ立ち会っていたきます。山の木が家になることを実感できて、とても感動的です」こんなこともあったそうです。「子供さんに恵まれないご夫婦が大黒柱に選ばれた木を伐ってみたら、内側のもう一本木を抱きかかっている、はらこもりの木だったんです。その直後にそのご夫婦は、お子さんを授かったんですよ」木のもついのちをいただいたの家づくりにには時には不思議なことも起きるのです。



山にはその「はらこもりの木」の切り株が残っていた。

「自分のうちの山の本で、できる限りのことを手仕事です木の家づくりでは、家がモノではないんです」と岡崎さんは語ります。出来上がった家を引き渡す時は、娘が嫁がせるようなささみしい気持ちになるのだとか。娘に会いに行くような気持ちで、家が完成してからも度々様子を見に行くことになり、ずっとお施主さんとお付き合いが続いていくそうです。家の完成が家づくりの終わりではありません。むしろ、つくり手と住まい手の家族ぐるみのつながりの始まりなのでしょう。

Like 0 0 ポスト



関連する記事はこちら

- 板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
- 3.11後を生き抜くコミュニティの力 牡鹿半島 福貴浦より
- 工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして
- 大工・金田彦彦さん(大「だいかね」建築)：幸せをつくる大工
- NPO開善庵いり屋敷・曳家工事：この家が動く！

#### 木のイベントカレンダー

最近の特集記事

- 2016年12月23日 掛川総会
- 2016年8月2日 込み松角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
- 2016年6月21日 熊本震災レポート 2
- 2016年6月9日 大工たちによる「家匠」の記録
- 2016年5月21日 熊本震災調査レポート
- 2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日記
- 2016年3月31日 2/16 衆議院第二委員会 審査報告会レポート
- 2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを促す～2016.1.17 京都フォーラム報告
- 2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会～会員発表編～
- 2015年11月13日 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー

#### 人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御袖祭り：300年の大木を伐る！18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 設計士・川端眞善さん(川端建築計画)：小さな石場建ての家 11件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(西條工務店)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー

#### 大場江美さん(サステイナブルライフ)の家、日野良彦さん(日野良彦建築アトリエ)：手のひらに太陽の家 7件のビュー

#### 家にお風呂が入るまで 5件のビュー

工務店・星野将史さん(星野将史)：木組み土壁のシェアハウス「ヨソバロケット」 入居募集

#### 中！ 5件のビュー

無くなっては困る！刻み用電動工具：込み松角ノミを復活させるためのアクション

#### 5件のビュー

サツキとメイと私の家：愛・地球レポート

#### この記事のタグ

日本の山河を守りたい  
現場レポート

#### 同じタグがついた別の記事

2010年10月9日 森林・林業・地域再生を目指して

2008年4月27日 国産材時代到来か？最新動向を検証

2005年1月25日 林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり

2006年11月26日 大工・池上算規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで

2002年1月25日 Q&A：環境篇